

私たちの手で支えあいの地域をつくる

▷問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会
(☎222-2866)

～高齢者の在宅生活の食を支える『^{はっさく}八朔の会』～

高齢者の一人暮らし世帯や高齢者夫婦のみの世帯が増えています。高齢者だけでの生活を支えるには、介護保険などの公的なサービスだけでは行き届かないところがあります。

芦屋町には、調理や買い物が困難な一人暮らしの高齢者などの在宅生活を支える福祉サービス「高齢者等配食サービス事業」があります。

今回は、この配食サービスを支えているボランティアグループ「八朔の会」を紹介します。

■八朔の会

昭和61年に給食サービスとして発足したボランティア団体です。手をつなぎりボンの会の団体の一つとして、調理や買い物が困難な一人暮らし高齢者などのために、弁当を調理して届ける活動をしています。

■調理班と配食班に分かれて活動

【調理班】

町の事業では、月・水・金曜日の週3回配食を行っていて、八朔の会は毎週水曜日、中央公民館の調理室で弁当の調理を行っています（月曜日と金曜日は、専門の事業者が調理します）。1班あたり約10人（3班構成）のボランティアが、1回あたり3時間程度、手分けして8種類のおかずを作り、盛りつけをしています。



【配食班】

月・水・金曜日の週3回、各家庭へ弁当を配達しています。弁当には町内の小学生からの手紙を添えていて、手紙を楽しみにしている人から元気をもらったとの声もあります。配達時にボランティアと利用者が笑顔で交流することで、見守り活動も兼ねています。



■地域を支えるボランティアに参加してみませんか？

地域の中で困っている人を支えるためには、一人でも多くのボランティアが必要です。八朔の会以外でもさまざまなボランティア活動がありますので、八朔の会やその他のボランティア団体に参加して、仲間づくり・社会奉仕に取り組んでみませんか。

普段の暮らしの中で空いた時間がある、ボランティア活動に興味のある人は、社会福祉協議会に連絡してください。

▷八朔の会・ボランティア活動などに関する問い合わせ
芦屋町社会福祉協議会 (☎222-2866)



▷問い合わせ 社会教育係
(☎ 2 2 3 - 3 5 4 6)

こどもの将来のために、 正しいしつけをしましょう

こどもが将来社会に出たときのことを考えて、「正しいしつけをしたい」と考えている人は多いのではないのでしょうか。

保護者がこどもへ生活習慣や社会でのルールを教えるために行うのが、しつけです。しつけには、①正しい判断をするための基準を教える、②繰り返し行なって経験を積み、さまざまな動作を一人でできるようにする、③集団生活や社会で生きていくための練習、などの目的があります。

こどものときから教えたい、基本的なしつけを紹介します。

①あいさつなどのマナー あいさつは、初対面の人や会話が苦手な人ともコミュニケーションを取るきっかけになります。逆にコミュニケーションが取れていないと相手に誤解を与えてしまう可能性もあるため、より良い人間関係を築くためにもあいさつは重要です。あいさつのルールのほか、どのようにあいさつをすれば相手が気持ちよいかも合わせて教えましょう。

②社会でのルール 「お店のなかでは走り

回らない」「図書館では静かにする」などの社会のルールは、社会で生きる人みんなが気持ちよく過ごすためにあります。「みんなが気持ちよく過ごせるにはどうしたらよいか」をいつも考えて行動できる大人になれるように、社会でのルールを少しずつ教えていきましょう。

③時間を守ること 大人になればなるほど、時間を守れないだけで周囲からの信用を失うことになりかねません。小さな頃から少しずつ、時間を守ることの大切さを教えましょう。

④わがままなどの他人との関わり わがままとは「他人のことを考えず自分の都合のみで行動すること」「身勝手」「自分勝手」なことを指します。こどものわがままな行動は、感情面が未発達のため相手の気持ちを客観的に考えることや、自分の感情をコントロールすることが難しいことから来ている。そのため、わがままを言っているのではなく、こどもが自分の気持ちを保護者に理解してほしいことからくずったり、駄々をこねたりするのです。保護者もこどもの気持ちをくんであげられるようにしましょう。そして、少しずつ「待つ」「我慢」することを教えましょう。

近年は、情報があふれ、価値観も多様化している時代です。何を信じてしつけをすれば良いのか、混乱してしまう人も多いのではないのでしょうか。しかし、保護者が、愛情一杯でこどもたちと接すれば、こどもは立派に自立し、社会の中で上手に生きていく力を身に付けることにつながるでしょう。

りーど通信 No. 55

折り紙製作・ 寄贈をしました

9月14日にりーどぼらんていあキッズ第3回研修会で、「折り紙製作・寄贈」を行いました。



中間市で折り紙ボランティアを行っている「すみれの会」の皆さんに会の活動内容を教わった後、ハロウィンをテーマに折り紙でかぼちゃやおばけ、黒猫を作りました。

折り紙を折った後は、おばけや黒猫にペンで顔を描いていきま



す。表情は一人一人個性的で、ぬくもりや温かさにあふれていました。

最後に、飾り付けを行いました。ペンやシールなどでそれぞれ好きなように飾り付けていま

した。完成した時は、「すごい！」や「早く家族に見せたい！」、「お家に飾りたい！」ととてもうれしそうでした。また、研修生は、身近な折り紙でボランティア活動ができることを学びました。

今回製作した作品は、図書館と子育て支援センター「たんぽぽ」に寄贈し、10月末までハロウィン祭りや常設展示コーナーに飾られていました。



▽問い合わせ ボランティア活動センター (☎ 2 2 1 - 1 0 1 1)